

伊那谷スケッチ

～自然と文化を巡るふるさと再発見～ 第三十九回



11月豆の収穫をする
濱中千鶴さん

前島久美

12月は田畠の冬終いに忙しい。田んぼで藁きり、豆の脱穀に選別。野菜を室にしまう。そこへ今年はハチヤが豊作だったので干し柿を仕込むのに時間がかかってしまった。今日はやっと、黒豆の脱穀をした。

野沢菜や白菜、大根を漬け物にするのもこの時期だ。豆の脱穀をしながらお隣の神田さんは野沢菜漬けをしているご様子。「毎年いろいろ付けてみるけどうまくいくのもあれば、他のはいまいちだったり、うまく漬かっても大事に食べるので結局、春先に痛ませてしまう。全部がうまく行く年はないに。そうやって年をとってきた」と朗らかに話してくれた。毎年が大実験なのだ。私も今年は野沢菜と沢庵漬けをした。集落のお茶会で振る舞える味にするのが当面の目標だ。

「いつでも送っていいよ大作戦 in 大鹿」実戦10年を迎えて

大鹿村のもったいない野菜便「いつでも送つていいよ大作戦in大鹿」を始めて今年で10年目を迎えた。この企画は山村から日本の自給率を考えることを目的に大鹿村の野菜の個配をおこなっている。発送する野菜は市場には出回らない、地元のおじちゃん、おばちゃんたちが主に自家消費で栽培する野菜たちで、虫くい、土付き、形は不揃が前提だ。それでも「送つてい

いよ！」という人たちを会員として募り、始まった当初から年間平均的に約30から40件前後の皆さんに利用していただいている。ここ3年くらいは都内の飲食店も数件加わった。それから、私が農家さんと密に接する機会が増したことで実家の旅館でも地元野菜の流通が盛んになった。大鹿野菜味の濃さには定評がある。

「いつでも送つていいよ大作戦 in 大鹿」は

2008年当時、島根県の温泉津（ゆのつ）温泉の旅館経営者が実践していた企画の模倣だ。大鹿村に帰ってきて1年ほどが過ぎ、なんとか地域の成り立ちに興味があった私は、地域おこしの講演会のひとここまで当事者からの話を聞き「これだったらひとりでもできるかも！」と思って取り組み始めた。正直、特に「野菜の流通」に興味があった訳ではない。小さいころから近所のおじちゃん、おばちゃんだった人たちの生活サイクルに興味があった。話を聞くだけではなく、関わり合いながら知りたいというのが当時の私の一番の興味だった。

2008年の冬頃に近所の人たちに声を掛け4世帯7人の了承を得て2009年の5月からスタートした。生産者の年齢は70代～82歳だった。当初一番苦労したのは、農家の皆さんにコンセプトを理解してもらうことだった。土がついていることや形が不揃いであることは市場ではあり得ないので「こんな野菜でいいのか」と言われることが多かったし、送り出す方も不安に感じたに違いない。しばらくすると会員の方からメッセージも届くようになり、彼らの不安は払拭された。この企画を始めた時、生産者の皆さんの年齢を考えると5年出来ればいいかな、程度に思っていた。10年目の現状は生産者3世帯4名で減少したものの毎年5月～1月の間に約30件前後の会員に毎月1、2回それぞれ野菜を発送している。ここ5年内に農業をリタイヤされたのが1世帯2名、亡くなられたのが1名だった。主力で野菜を出してくださっている濱中千鶴さん（82）は、「いつまでやるんだ、おばあはもうあっちがちかいぞ！」と言しながら、来年の作付け計画に余念はない。

皆それぞれ10年の歳月を身体に刻んでいるので今まで出来てたことがなかなか思うようにならなくなっていることもあるが、それでも私が思っている以上に畑に立つ人たちは根性があり、グリーンシーズンの働き方は目を見張るものがある。肉体エネルギー以外のものを使って仕事をしているように思う。ある人は怒りをパ

ワーに、またある人は性欲をパワーにして畑にたつ。あとは、草のエネルギーとシンクロするという手法も見られる。エネルギーはエネルギーなのだ。これが赤石大明神のパワーなのか、とも思う。

今朝、もったいない野菜の集荷に最長老のお宅にうかがうと、「来年は出来るかわからんけど、種を買ったで！」と紙谷正さん（93）は畑に藁をしきながらお元気そうに話掛けてくれた。紙谷さんは今年の冬に転んで頭部を手術をしたがだんだんと回復して11月頃には、すっかり顔色もよくなって安心している。畑に目をやると種がいつでも蒔けるように畝が引かれ、エンドウの手（添え木）もキレイに設置されている。やる気まんまんではないか。

冬と一緒に身体を安め、また春になれば野に出て働く。私はこの当たり前の村の生活に寄り添っていきたいと思う。

2・3月は研修のため東京で生活しています。ご入用の際はお声がけ下さい。

新春、前島久美の売り

★出前ヨガ

場所をご用意いただければ「ヨガクラス」を出前します。社内研修や部活動、ダンスなどのパフォーマンスアップやイベントに。

マットいらずの椅子ヨガもオフィスや痛みをお持ちの方に人気です。

★お話しできること

・「あなたの知らない南アルプス」2018年に出かけた深い南部の谷や山のレポート。写真たっぷりに山岳散歩

・「リニアで変化する山村風景」

その他「大鹿村観光について」ご相談にのります。また、昨年に引き続き信越放送のドキュメンタリー映像もご利用いただけます。